

# ICT通信 4月号



今回の担当は看護部外来です。

病院の外来は毎日、予約の患者さん・初診の患者さん・その付き添いの方など多くの人が入り出します。それゆえ診断を受ける前の潜在的な感染症患者さんや易感染状態の患者さんなどが混在する場でもあります。患者間・患者・職員間での感染を防止する取り組みが必要になります。今回はそうした取り組みについて紹介したいと思います。

はじめに、初診の方には受付でどのような症状で受診を希望されているのかお聞きします。その際、発熱や咳・痰などの呼吸器感染症状や、下痢などの症状がないかも確認します。咳がある場合にはマスクの着用をお願いします。熱が高い場合や家族に同じような症状の方がいるなどで感染症が疑われる場合には専用の部屋へ患者さんを案内し、他の患者さんとの接触を最小限にできるように対応します。受付から外来看護師へ感染症を疑う患者さんがいる事を連絡しその後看護師は専用の部屋で問診・血圧測定などを行います。インフルエンザが疑われる場合にはインフルエンザウイルス抗原迅速検査を行います。結果が陰性であれば通常の流れで検査・診察にご案内します。インフルエンザが陽性となった場合、検査は最小限として医師の診察を行い薬を処方して早めに受診が終了するよう対応します。検査へ移動する際は他の患者さんが少ない通路から移動するなどの対応をさせていただきます。

予約の患者さんは事務受付時、もしくは看護師問診時に発熱や呼吸器感染症状・下痢などの症状がないかを確認させていただいて、症状がある場合には同様の対応をさせていただきます。

患者さんに使用した専用個室は使用後に感染症に応じた消毒液を用いて清拭を行います。

インフルエンザやノロウィルスの流行時期は外来入口にポスターを貼り、症状がある場合には早めに申し出て頂くようお願いしておりますが、流行を外れた時期でも発熱や咳・痰・下痢などの症状がある場合には遠慮なく受付へ申し出て頂きたいと思っております。